



遅ればせながら、輝かしい2014年の幕開け、皆様おだやかに新年を迎えられたことと存じます。今年も皆様にとって、幸多い一年となりますよう心よりお祈り申し上げます。

さて、2014年最初の話は・・・

新中学校建設に向けての動き ・・・についてです。



昨年11月18日（月）、現羅臼中学校舎の「耐力度調査」に要する費用の補正予算を審議する臨時議会が開かれ、全会一致で可決しました。

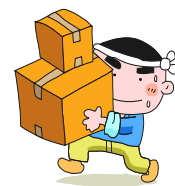
新中学校の建設にあたっては、その財源の一部として国庫補助金も見込んでおり、この「耐力度調査」は、その交付申請の前提要件となるもので、現羅臼中学校敷地内に新たな中学校を建設する場合、耐力度調査を行い、現羅臼中学校舎が「危険建物」と判定される必要があります。調査については、昨年12月24日に業者を決定する入札が行われ、今年度末に結果が出される予定で、いよいよ新中学校建設に向けた動きがスタートします。

これから、新校舎建設の工事着工に向けた各種作業ほか、両中学校の閉校準備や新中学校開校に向けた準備（校名、校歌、制服等の制定～引越し）等、様々な作業を進めていかなければなりません。



町では現在、必要と思われる作業の洗出しや作業スケジュールの整理を進めていますが、新校舎の建設にあたっては、当然、児童・生徒や先生、保護者、地域の方々の要望や提案をお伺いすることも必要と考えています。

今後、様々な場面で、PTAをはじめ町民各位のご支援・ご協力をいただくことが想定されますので、その際は、ご理解・ご協力を宜しくお願い致します。



【中学校建設工事にに関して想定される大まかなスケジュール】

平成25年度	耐力度調査
平成26年度	地質調査、基本設計発注準備、基本設計
平成27年度	実施設計発注準備、実施設計、補助金申請手続き、確認申請手続き
平成28年度	補助金の決定、工事発注準備、着工
平成28年以降	建設工事
	既存校舎取壊し、グラウンド・外構工事

平成25年度「知床学士検定」合格者発表

今年度で5回目を数える「知床学士」検定試験が、去る12月15日（日）、公民館を会場に行われました。

ご承知の通り、羅臼町では現在、幼・小・中・高一貫教育を推進していますが、その前身として導入された中・高一貫教育の取り組みの中で「郷土や知床半島の自然環境・歴史・産業などへの理解を深め、その特色を来訪者に説明できる力」や「自然保護リテラシー※1を身につけた人格を育成し、知床の自然環境を未来に永く遺していけるような人材育成」を目的として、「知床学」について学ぶカリキュラムが設けられ、その成果を試す機会として「知床学士」検定が位置付けられています。

今回の受験者は中学生2名、高校生14名の計16名で、当日は吹雪模様でしたが、全員出席し試験に挑みました。

試験は、1級から3級の級ごとに問題が異なり、最上級の1級は筆記試験の他に面接・口頭試験も設定されています。

去る1月20日、可否の判定会議が開催され、次の9名が見事合格し、知床学士の認定を受けました。

- 1級認定者：藤本華子さん（羅高2年）
- 2級認定者：相木ひかるさん（羅高3年）
- 〃 菊地侑香さん（羅高2年）
- 〃 岩井莉彩さん（羅高2年）
- 〃 猪狩美咲さん（羅高1年）
- 〃 芦澤美空さん（羅中3年）
- 〃 長川響樹くん（春中2年）
- 3級認定者：相原美沙さん（羅高2年）
- 〃 伊藤涼太くん（羅高1年）

知床学士に認定された9名には、認定証と記章、証明書が交付されました。おめでとうございます。

これからも、知床らうすの自然環境や産業・生活文化についての知識を深めていてもらいたいですね。

※1「自然保護リテラシー」：自然環境を総合的に理解する能力、すなわち自然環境が私たちに与える影響を理解し、同時に私たちが自然環境に与える影響についての基本概念を理解する能力。広義には、理解したことを他の人に分かりやすく正しく伝達し、さらに自然環境や資源について広い知識を活用して責任のある行動をとれること。

いろんなことが問題に・・・ ～学校現場の困り感～

この一年間、学校や子ども達の様子を見て来ましたが、学校現場では、いろんなことに困っている様子がうかがえます。

子ども達の学力・体力、授業に集中できない子どもへの対応、生活リズムの乱れや家庭学習の少なさ（⇔テレビ視聴やゲーム時間の多さ）、スマホ・LINE（ライン）の問題・・・etc.



各学校では、出来る限りの努力をもって解決・改善に向けた働きかけや取り組みを行っていますが、学校だけでは解決・改善できない課題が多いのが実態です。家庭・地域が共通理解に立って、学校と一体となって取り組まなければ、良い効果・結果は得られません。

子育てについての考え方は、保護者個々で違いはあると思いますが、一つだけ言えることは“子どもたちの心身共に健やかな成長を願う”のは、どの親でも同じではないでしょうか。

順序として、常識的には親が先にこの世を去ることになります。親が最後まで子どもを支えられないとすれば、子どもが一人の大人として、社会で自立して生きていける力をつけてあげることが、親の役割であり、真の子どもへの愛情ではないでしょうか。



最近、子どもに対して過度に干渉（指示する・手を出すなど）する親や逆に放任（会話をしない・無視する・子育てを放棄）する親、子どもを叱れない親など、家庭における保護者の問題も気になるところです。優しさの中にも、時には愛をもって厳しく子に諭（さと）すことも必要だと思うのですが・・・どうお考えになりますか？

（裏面に続く）

…関連して、 ちょっと気になる「LINE(ライン)」の話



巷(ちまた)では、今やすっかりコミュニケーションツールの定番となっている『LINE(ライン)』。子ども達の利用も高くなってきており、利用が増える一方で、使い方によってはトラブルにつながる可能性もあり、一部では、やっかいな問題も起きているようです。

子ども達のインターネット利用を考えるうえで、今や欠かすことのできない LINE ですが、そもそも LINE とはどのようなものなのか、その危険性やトラブル事例について知り、子ども達の LINE の利用について考えてみたいと思います。

《「LINE」って?!》

LINE とは、LINE 株式会社が開発・提供しているアプリケーション※¹で、LINE をインストール※²している機器同士で無料通話、無料チャット(テキストメッセージによるやり取り)を行うことができます。2011 年 6 月にサービスを開始して以来、2013 年 11 月には全世界で利用者が 3 億人を突破しました。

※1「アプリケーション」：用途・目的に応じた機能を有するプログラムのこと。

※2「インストール」：機器にプログラムを追加し、それに応じた機能をつけるようにすること。

《利用環境》



LINE は主にスマートフォンから利用されていますが、パソコン(※他機器からの利用登録が必要)やフィーチャーフォン※³(※使える機能に制限あり)、アプリケーションをインストールすることができる携帯音楽プレイヤー(iPod touch、一部のウォークマンなど)、タブレット端末(iPad、Nexus など)でも利用できます。

※3「フィーチャーフォン」：一般的にスマートフォン以外の携帯電話の通称ガラパゴスケータイ(ガラケー)とも呼ばれています。

道内のある中学校を対象としたアンケートでは、スマートフォンの利用率が約 45%だったのに対し、LINE の利用率は 51%という結果が出ています。

《LINE の危険性とトラブル事例》

① 見ず知らずの人と友達になってしまったこと によるトラブル

※面識のない人と連絡を取ってしまい、実際に会うことで事件や事故などのトラブルに巻き込まれる。



※個人情報を教えてしまったことによって、つきまとわれたり、自宅に押しかけられたり、いたずら電話がきたり、個人情報を握られてお金を要求される。

② 学校の友達など、知り合いのグループ内でのいじめトラブル

※複数人で一斉に会話することができる場所(グループトーク)で、悪口などの誹謗中傷(ひぼうちゅうしょう)を受ける。

⇒ 羅臼町内でも、このような事例が発見されたことがあります。

※会話の返事を返さないと、仲間はずれにされる。
⇒ 仲間はずれにされることを恐れ、夜遅くまでグループトークに付き合い、結果、睡眠不足などにつながり、授業に集中できないという状況もあるようです。



※トークやタイムラインに顔写真や他人に知られたくないことを掲載されて晒(さら)し者にされる。

③ 迷惑メール業者トラブル



※迷惑メール業者から送られてくるメッセージに従って会員登録などをしてしまうことによる架空請求。
※会員登録や個人情報の返信などをしたことで、LINE やその他一般のメールに迷惑メールが多く送信されるようになる。

携帯電話やスマートフォン、使い方によっては便利な道具ですが、これらの道具をお子さんに持たせる際は、LINE の利用など、使用に関するルールなどを子どもと話し合って決めたり、トラブルに巻き込まれないよう、あらかじめ危険を回避する方法等を販売店で確認・相談するなど、保護者としての学習・対応・対策がとっても大切になってきますね。

「みんなが持っているから、仕方なく・・・。」という保護者の声も耳にしますが、子どもに持たせる時期はいつが適当なのかを見極めることも必要ではないでしょうか。年齢によっては、「子どものために持たせない!!」という選択肢もあり…かも・・・。



シリーズ「栄養士からの情報提供」—No.15—

栄養士のお仕事



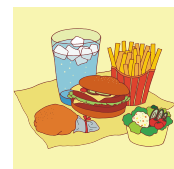
今回は、管理栄養士として“食べること”についての個人的な見解？を少しお話しさせてください。

栄養士の仕事として一般の方がよくイメージするのは、①献立(給食)を作る、②病院での栄養相談、というのが多いのではないかと思います。その上位にイメージされる仕事の中でも、栄養相談は皆さんからの人気が無く(笑)、進んで話を聞きたいと来られる方は少数派で、大半の方は『お医者さんに言われたからしょうがなく』『(健診等の)流れで何となく』という方が殆どです。

どうして“聞きたくない”と思われるのかなあ と振り返ると、結果として栄養士側の言う事が「あれ食べちゃダメ・これ食べちゃダメ」というように聞き手側に伝わってしまっているのではないかなあと思います。病気や薬との飲み合わせの関係で“ダメ”という食品もありますが、基本的には命の危険が無い限り、食べてはいけないというモノは無いんです。それを栄養士が「食べる量を減らして」「〇〇を食べるなら△△に変えて」と説明することが、結果として“ダメ”と聞こえてしまっている→否定されるように聞こえる→聞きたくない…に繋がってしまっているのではないかと考察&反省です。



私自身、食べることは基本的に楽しい事だと考えています。宴会や懇親会などの席では、必ず食事やお菓子・お酒・ジュースなどの嗜好品が出るし、少人数で集まってただお喋りするだけでも、飲み物+食べ物のセットはつきものですね(^^)。そんな楽しいことを規制しなさいと言う栄養士の話なんて、聞きたくないと思われるのも当然だなと思います。



元来、おいしいと感じる食品は食べた人に必要な栄養素が含まれていました。でもそれは1日1食たべられるかどうかだった狩猟時代のお話。砂糖や油が精製できるようになり、“おいしい”を簡単に作れるようになった環境で生きている私たちは、本能の赴くままに食べていると体を壊してしまいます。だから考えながら食べる必要があって、栄養士という職業も生まれました。世界共通(のはず...)に栄養士がお話する食べ方は、体のコンディションに合わせた方法。コンディションは血液検査 etc...の結果から判断してお話をしています。

でも、食べる習慣を変えていくって難しいですよ。私も、楽しいことを規制するというお話の仕方ではなく、ちょっと試してみようかなと思って頂けるように、トークのテクニックを磨きたいなと思います。皆さん、どうぞお気軽に栄養士に声をかけてください。

